

大鹿村中央構造線博物館たより 71号



月・火曜日休館

TEL&FAX: (0265) 39-2205 E-mail: mtl-muse@osk.janis.or.jp

大鹿村ジオツアーのお知らせ

今年8月、中央構造線博物館では大鹿村内のジオサイトを巡るツアーを企画しています。

昨年9月に実施した日本ジオパーク全国大会でのジオツアーをもとに、今年は大鹿独自のイベントとして開催します。

見学地としては博物館をはじめ、大西公園、安康露頭、夕立神展望台、福德寺、黒部銃次郎の坑道跡などを予定しています。

1泊2日の日程で、大鹿村外から参加される方は村内に宿泊していただきます。

また、村内在住の方の参加も歓迎します。ご自宅から通って参加することも可能です。

今回のツアーは有料で、お申し込みが必要となります。詳細は博物館までお問い合わせ下さい。(榊原)

大鹿村中央構造線博物館：電話 0265-39-2205



中央構造線 安康露頭

期日：8月22日(土)・23日(日)

参加費：¥1000 前後を予定(博物館入館料・保険料含む、宿泊費・弁当代は別)

定員：20名

申込締切：8月2日(日)まで

1日目 8月22日(土)

(主に徒歩で移動します)

15:20 ウェストン碑集合(15:15 路線バス着)

小渋川沿いの三波川帯の緑色片岩と蛇紋岩

・大西山崩壊地の鹿塩マイロナイト・博物館

18:00 解散・宿泊先(赤石荘)へ出発

2日目 8月23日(日)

(主にマイクロバスで移動します)

8:00 宿泊先(赤石荘)出発

8:20 博物館駐車場集合・出発

安康露頭・福德寺と上蔵の地形・夕立神展望台にて昼食(お弁当を用意しますが、別料金となります)・中尾と河合鞍部・塩の里と黒部銃次郎の坑道跡・博物館にてまとめ

15:20 解散

※解散後、希望者は松川インターまで

マイクロバスで送ります。

※見学地、時間等は変更する場合があります。

神城（かみしろ）断層地震から学ぶ その4

前回は、地下の岩盤に「震源断層」というずれ目が生じて地震が発生すること、震源断層が浅くて大きい場合、そのずれ目が地表まで達して「地表地震断層」という地面のくいちがいが現れることがあるということでした。

最近20年間に日本列島の地殻で生じた地震では、阪神淡路大震災の原因になった1995年兵庫県南部地震、1998年岩手県内陸北部の地震（雫石地震）、2003年中越地震、2011年福島県浜通りの地震（井戸沢断層地震）、2014年長野県北部の地震（神城断層地震）で、陸地の地面に明瞭な地表地震断層が現れています。

—内陸の地震の震源断層は、富士山の高さの5倍くらいの深さから地表まで広がる—

地球の営みは、スケールが大きくて、イメージするには少し想像力が要りますね。内陸の地殻の地震で、マグニチュード7ていどの震源断層を絵にしました。マグニチュード7ていどの地震の震源断層の面積は、ほぼ大鹿村と同じくらいです。

震源断層の大きさは、深さ方向には、地表付近から富士山の高さの5倍くらいの約15kmまで。じつはその下ではゆっくりとずれてマイロナイトがつくられていると考えられます。

震源断層の水平方向の長さは10数km～数10kmくらいです。

—内陸の地震のマグニチュードがおおよそ7.0以上だと、地表にくいちがいが現れる—

内陸の地殻の地震でマグニチュード7.0ていどの規模になると、地表にもくいちがい（地表地震断層）が現れます。地表地震断層は、震源断層の一部が地表に現れたものなので、その全長は震源断層より短くなります。

じっさいは、雫石地震はマグニチュード6.1の小さめの地震なのに地表地震断層が現れました。一方、2000年鳥取県西部地震ではマグニチュード7.3の大きな地震なのに地表地震断層が現れませんでした。例外には例外になる理由があるはずで、自然の理解のためにも、防災対策のためにも、その理由を知ることは重要です。しかし基本があつての例外ですから、まずは基本的なイメージを持ちましょう。（河本）

